

こんしゅう
今週のこたば「信用」

せいしょ
《聖書》ルカによる福音書 7:1-10

ひと しんよう
人を信用すること

さいきん じぶん りえき
最近^{さいきん}は自分^{じぶん}の利益^{りえき}のことばかり^{かんが}考^{かんが}えて、
ひと
人^{ひと}のことなどどうでもいいという人^{おお}が多い^{おお}
ようですね。くに まも こくみん はたら
国^{くに}を守^{まも}り、国民^{こくみん}のため^{はたら}に働^{はたら}か
なければいけないはずの指導者^{しどうしや}が、こくみん
国民^{こくみん}か
ら信用^{しんよう}されないことばかりしていると、そ
れがあたりまえのようになって、お互い^{たが}が
信用^{しんよう}できないような状態^{じょうたい}がどんどん^{ひろ}広が
っていきます。

にほんじん
日本人^{にほんじん}が、アジアの人々^{ひとびと}から信用^{しんよう}されて
いないのは、か こ せんそう
過去^{かこ}の戦争^{せんそう}のことだけでなく、
げんざい じぶん りえき もと こうどう
現在^{げんざい}も自分^{じぶん}たちの利益^{りえき}だけ^{もと}を求めて行動^{こうどう}
しているからです。にほんじん りえき
日本人^{にほんじん}は利益^{りえき}のことば
かり^{かんが}考^{かんが}えて、なかなか^{あいて}相手^{しんよう}を信用^{しんよう}できませ
んが、ぶつしつてき ゆた
物質^{ぶつしつてき}的に豊^{ゆた}かでない国^{くに}で育^{そだ}った人^{ひと}は、
かえって^{こころ}心^{こころ}が豊^{ゆた}かであり、あいて しんよう
相手^{あいて}を信用^{しんよう}す
ることは当然^{とうぜん}のように受^うけとめています。

しんよう ひやくにんたいちよう
イエスを信用^{しんよう}した百人隊長^{ひやくにんたいちよう}

ひやくにんたいちよう しんよう
百人隊長^{ひやくにんたいちよう}はどうしてイエスを信用^{しんよう}す

ることができたのでし

ようか。かれ いま せいかつ けいけん
よ。それ^{かれ}は彼^{かれ}の今^{いま}までの生活^{せいかつ}の経験^{けいけん}か
ら^{はんたん}判断^{はんたん}でした。かれ
彼^{かれ}がいつも部下^{ぶか}を信用^{しんよう}す
る人^{ひと}だったから、部下^{ぶか}の人^{ひと}たちも彼^{かれ}のこと
を信用^{しんよう}して命令^{めいれい}に従^{したが}っていました。
ひやくにんたいちよう ひごろ ぶか しんよう
百人隊長^{ひやくにんたいちよう}も、日頃^{ひごろ}から部下^{ぶか}を信用^{しんよう}してい
かないと、じぶん つと
自分^{じぶん}の務^{つと}めをはたすことができ
ないと知^しっていたから、イエス^{たい}に対^{たい}しても
こころ しんよう
心^{こころ}から信用^{しんよう}することができました。

わたしたち じぶん こうどう はんたん
私^{わたしたち}たちは自分^{じぶん}の行動^{こうどう}について判断^{はんたん}する
ばあい じぶん りえき
場合^{ばあい}、ついつい自分^{じぶん}の利益^{りえき}になるかどうか
かんが りえき
考^{かんが}えて、利益^{りえき}にならないことはやりません。
でも、たとえ利益^{りえき}にならなくても、じぶん
信用^{しんよう}できる人^{ひと}の言^いうことなら聞^きくことがで
きます。

かみ こころ しんよう
神^{かみ}を心^{こころ}から信用^{しんよう}していれば、せいしょ しめ
聖書^{せいしょ}に示^{しめ}
されている道^{みち}をおもいきって進^{すす}むことがで
きます。さらに、たが
お互い^{たが}どうしが信用^{しんよう}して生
きていける社会^{しゃかい}を作^{つく}ることができます。

ねんかんたい しゅじつ ねん たきのしょうざぶろう
年間^{ねんかんたい}第^{しゅじつ}9主日^{ねん}C年^{たきのしょうざぶろう} (瀧野正三郎)